



語学文学会報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学語学文学会 公開日: 2017-04-20 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/10634

語学文学会報告

○会員の異動

高瀬匡雄 平成14・10・1 岩見沢校新任
瀧沼誠二 平成15・3・31 停年退官
池澤 稔 平成15・3・31 停年退官

○語学文学会学術研究発表会

平成十四年十一月五日午後二時半から函館校大会議室において第二十五回学術研究発表会を行った。題目は次の通り。

講演

旭川校学生の「話すこと」に関する実態分析について(統)

旭川校 池澤 稔

幸田露伴の文学について

岩見沢校 瀧沼 誠二

○語学文学会総会

学術研究発表会終了後、同所で午後四時半から総会を開いた。主な議事は次の通り。

- 1 会員異動報告
- 2 会長選出
- 3 電子化へ向けての状況確認
- 4 『語学文学』の体裁について
- 5 『語学文学』の編集について
- 6 会計報告
- 7 『語学文学』第四十一号について

8 次回開催校の確認

総会終了後、函館ロイヤルホテルに移動して、午後六時半から懇親会を催した。

分校研究短信

○札幌校関連

- 1 『札幌国語研究』第七号発行 平成十四年六月
- 2 北海道教育大学国語国文学会(札幌)

第六回教育研究大会の開催

日時 平成十五年二月十八日

場所 札幌校第三演習室

研究発表

中島敦『山月記』教材化の調査研究 片山 一良

謝霊運の賦について

―『山居賦』を中心として― 川邊 史絵

漢字の効果的学習法の研究 重山 麻人

戦前中国における日本語教育 孫 静霞

「他者理解」のための文学教育論 花坂 歩

夏目漱石『こころ』論 藤田 淳子

文学的文章教材の指導課程論

―文学教育・言語技術教育融合論序説

堀 裕嗣

○北海道教育大学函館校国語会

・「会報」第四十八号の発行

・「函館国語」第十八号の発行

・平成十四年度研究発表大会の開催

平成十四年十一月三十日(土)

研究授業解説(十時四十分～十一時)

附属函館小学校 川野靖幸

授業ビデオ放映(十一時十分～十一時五十五分)

授業者 川野靖幸

シンポジウム「授業 伝え合う力をはぐくむ授業 の検討」

(発言者) 函館・附属小学校 川野靖幸

函館・柏野小学校 五島博司

江別・第二中学校 桂川淳

函館・ラサール中学校 男山克弘

(司会) 渡島教育局 三浦澄子

総会(十六時十分～十六時三十分)

* 川野教諭の授業は大会の前日に附属小学校体育館を会場にして、公開授業として実施された。大会当日は授業を参観できなかつた方のためにビデオ放映を行ったうえで、シンポジウムを実施した。川野教諭の授業は子どもの学習意欲の喚起を重視した授業であった。三浦氏の手際よい進行により、学力形成や当日使用した教材の適否についてなど、多様な論点が出され、議論が行われた。

大会後、恒例の懇親会を函館法華クラブに会場を移して行った。OBの方、そして院生・学部学生と、新旧織り交ぜた参会者の中で、楽しいひと時を過ごした。

○北海道教育大学旭川校国語国文学会

第十八回研究発表大会を、次のように開催した。

・日時 平成十四年十一月十六日(土) 午後一時から午後五時まで。

・会場 上川教育研修センター二階 講堂 旭川市六条四丁目

・研究発表

1 文学的文章の読みの指導について

紋別市渚滑小学校・本学院生 岡田陽子

2 今求められる国語科関連指導のあり方

附属旭川中学校・本学院生 神林宏行

3 音声言語指導のあり方―これまでの取組みの実践報告

旭川市新富小学校 長嶋義和

4 言葉と心が響き合う国語科授業の創造

旭川市東明中学校 片原俊光

・講演

わかることへのこだわり

北海道教育大学教授 池澤稔

・総会 午後四時三十分より、同会場にて。

・懇親会 午後五時二十分より、リッカ亭にて。

○ 月例会 原則として毎月一度、金曜日の午後六時より、旭川校人文第二演習室にて開催。平成十四年十二月例会まで通算七十二回開催。

○ 釧路国語教育学会

第一回 六月十日(月)

「ものがたりやさん」の構想

釧路校附属小 寺島真一

「よく 思い出して」

― 作文指導 日記から作文へ―

釧路市立愛国小 辺見真弓

第二回 六月二十八日(金)

附属釧路小学校研究大会

授業者 釧路校附属小 寺島真一

提言者 同 齊藤敦司

第三回 九月九日(月)

「みんなで遊ぼう」

釧路市立昭和小 白川裕子

第四回 十月二十五日(金)

附属釧路中学校研究大会

授業者 釧路校附属中 太田諭

同 二階美幸

第五回 十一月十一日(月)

「春はあけぼの」考

釧路校 比良輝夫

第六回 二月十日(月)

「言語感覚を豊かにする授業の創造」

釧路校附属小 太田諭

「要約文について」

釧路市立鳥取中 池田沙織

○ 北海道教育大学岩見沢校国語国文研究会

― 平成十四年度研究発表大会 ― 平成十四年八月十日(土)

於 北海道教育大学岩見沢校 大会議室

総合同会 前田理沙(札幌市立栄緑小学校)

〈研究発表〉

① 『認識と存在―国語科学力構造論序説』 堀 裕嗣

北海道教育大学大学院(札幌市立向陵中学校)

② 『「伝え合う力」を育てるために―作文指導を中心に』

札幌市立厚別北小学校 勝原竹美

③ 『国語科「学習用語」体系』 柳谷直明

北海道教育大学大学院(由仁町立由仁小学校)

〈総会〉平成十三年度活動報告・決算報告、予算案審議

● 記念講演 北海道教育大学岩見沢校

教授 潟沼誠二

『いとはば・いとはば・ことば―国語教育を再考する』

*お礼の詞・・・岩見沢校 教授 大塚 達也

*花束贈呈・・・第一研究室学生 嶋崎 睦美

会を始めるにあたって、森田先生のご冥福をお祈りして、黙祷を捧げた。潟沼先生の退官記念講演とあって、各地から多数の卒業生が集まり、熱心に耳をかたむけていた。

例年になく盛会裏に閉会し、懇親会でも和気に満ちた交流がなされた。森田先生の御遺族も参加された。